

令和7年度 第4回南房総・館山地域公共交通活性化協議会 会議報告

会議の名称	令和7年度 第4回 南房総・館山地域公共交通活性化協議会
開催日時	令和8年1月26日(月) 14時00分～15時10分
開催場所	南房総市役所 別館1 大会議室
出席者等	<p><出席委員>17名</p> <p>協議会会長 石井 博臣 委員(館山市副市長)</p> <p>協議会副会長 嶋田 守 委員(南房総市副市長)</p> <p>協議会副会長 伊藤 昌央 委員(千葉県総合企画部 交通計画課 地域公共交通担当課長)</p> <p>田上 重光 委員(東日本旅客鉄道株式会社 館山駅長)</p> <p>高橋 晴樹 委員(日東交通株式会社 運輸部長)</p> <p>中川 行雄 委員(ジェイアールバス関東株式会社 館山支店長)</p> <p>代田 憲隆 委員(鏡浦自動車株式会社 代表取締役)</p> <p>本間 裕二 委員(南房タクシー株式会社 代表取締役)</p> <p>代理出席 取締役 川名 隆文 様</p> <p>小澤 利男 委員(日東交通労働組合 安房支部代表)</p> <p>嶋田 敏行 委員(安房土木事務所 調整課長)</p> <p>青木 文男 委員(南房総市住民・利用者代表・三芳地区)</p> <p>本橋 清一 委員(南房総市住民・利用者代表・白浜地区)</p> <p>市野 将英 委員(国土交通省関東運輸局 交通政策部交通企画課長)</p> <p>菅井 規 委員(関東運輸局千葉運輸支局 首席運輸企画専門官)</p> <p>坂井 陽一 委員(館山警察署 交通課長)</p> <p>鈴木 賢二 委員(安房道の駅連絡会 会長)</p> <p>手島 隆 委員(館山市社会福祉協議会 事務局長)</p> <p><欠席委員>4名</p> <p>成田 斉 委員(一般社団法人千葉県バス協会 専務理事)</p> <p>眞汐 眞一 委員(館山市住民・利用者代表(連合会長) 那古地区連合町内会長)</p> <p>庄司 武雄 委員(館山市住民・利用者代表(連合副会長) 館山地区連合町内会会計)</p> <p>為国 孝敏 委員(NPO法人まちづくり支援センター 代表理事)</p> <p><事務局></p> <p>館山市総合政策部 別所部長</p> <p>館山市総合政策部企画課 渋谷課長、宇都木係長、矢代副主査</p> <p>南房総市総務部 座間部長</p> <p>南房総市総務部企画財政課 黒川課長、和泉澤課長補佐、鈴木係長、忍足主査</p> <p><その他出席者></p> <p>ランドブレイン株式会社 井口氏 小更氏 高石氏(交通計画策定支援業務受託事業者)</p>

傍聴人	1人
会議の議題等	<p><議題></p> <p>(1) 令和7年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について 【協議第11号】</p> <p>(2) 今後の南房総・館山地域公共ライドシェア実証運行について 【協議第12号】</p> <p>(3) 南房総・館山地域公共交通計画素案について 【協議第13号】</p> <p><その他配布資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 席次表 ・ 南房総・館山地域公共計画資料編 ・ パブリックコメント実施案 ・ 南房総・館山公共交通フェスタアンケート結果
議事概要及び 発言の要旨	別紙 会議要旨のとおり

別紙 会議要旨

<p>石井会長 あいさつ</p>	<p>日ごろより、当地域の公共交通行政にご理解ご協力をいただき、御礼申し上げます。 また、物価高騰や人手不足など社会情勢の変化が公共交通にも大きく影響している中、皆様におかれては、住民の移動ニーズに応えるため、日頃より路線維持や利用促進に向けた様々な施策を展開されるなど、ご尽力いただいていることに改めて御礼申し上げます。</p> <p>現在国において、交通空白の解消に向けた制度的枠組みの構築が更に推進されているが、当協議会においても、交通空白の解消を含む移動手段の確保に向けて、チョイソコ南房総・館山や房総ライド、スマホ乗車券など、皆様の協力により様々な施策を実施しており、今後も引き続き、皆様との連携により地域の交通モードを有効に活用し、当地域の公共交通を維持・確保していくことが重要だと考えている。</p> <p>前回の会議では、「南房総・館山地域公共交通計画」策定に関し、計画目標や評価指標、目標値及び、具体的な施策について御意見をいただいた。</p> <p>本日はご協議いただくのは、地域公共交通確保維持改善事業の事業評価及び、房総ライドの今後の実証運行について、地域公共交通計画の策定に関するもの。特に計画についてはパブリックコメントの実施に向けて、最後の修正タイミングとなる。重要事項が多くあるため、皆様からの積極的なご意見を頂戴できれば幸い。</p>
<p>菅井委員</p>	<p>【協議第11号：令和7年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について】 ○協議第11号資料の内容について事務局から説明。質疑を経て、承認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィーダー事業評価の館山市街地循環バスについて、EVバスの導入により収支率が悪くなったとのことだが、導入費用を抜くと収支率は何%くらいになるか。 ・フィーダー事業評価のチョイソコ南房総・館山について、モデル利用を作成し周知するとなっているが、周知だけだと利用に繋がりにくいため、乗車体験ツアーを検討しても良いと思う。 ・幹線事業評価について、JRバス関東が13.27%改善したとあるが、改善状況の具体的な内容はいかがか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・循環バスについては、導入費用を抜くと約9%。 ・JRバス関東の収支率の改善については、一部路線の廃止や減便が大きな要因だと、JRバス関東より伺っている。
<p>市野委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フィーダー事業評価循環バスのポンチ絵様式が前年のもののため、提出の際に修正していただきたい。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・修正させていただく。

	<p>【協議第 1 2 号：今後の南房総・館山地域公共ライドシェア実証運行について】</p> <p>○協議第 1 2 号資料の内容について事務局から説明。質疑を経て、承認された。</p>
田上委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回協議会内で、交通空白時間帯ではなく、交通空白エリアでの運行について提案させていただいたが、検討状況はいかがか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通空白エリアでのライドシェア運行については、事務局でも検討しているが、今回は現状の実証運行の継続可否について提案させていただいた。交通空白エリアでの運行は、今回提案した基準を満たさなかった場合に、実施を検討する事とし、次回 5 月の協議会前に事務局及び関連事業者で検討させていただき、提案させていただく。
田上委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夜間の実績数が多い訳ではなく、かかるコストや労力も大きいと考える。交通空白エリアで運行し、夜間運行を廃止した方が効果的かと考える。基準満たさなかった場合は、是非交通空白エリアでの運行を検討していただきたい。
市野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドライバー確保状況について、ドライバー登録数が累計 34 人となっているが、アクティブな人数か。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの累計数となり、アクティブな人数は 4 名程度となっている。JR 東日本の協力も含めての数字となる。
市野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR 東日本の現状の協力内容はこういった内容か。
田上委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドライバー協力ということで、月に 4 回程度各回 1 名の協力をしている。
	<p>【協議第 1 3 号：南房総・館山地域公共交通計画素案について】</p> <p>○協議第 1 3 号資料の内容についてランドブレイン(株)、事務局から説明。質疑を経て、承認された。</p>
市野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンパクトな計画になっており、国土交通省の考えに沿った計画になっている。 ・ データに関して、OD データの活用はあるか。活用があるのであれば、資料編に追加していただきたい。 ・ p 4 の幹線軸、支線軸とはどの路線を指しているか。 ・ p 1 6 の他分野連携に関して、様々な需要と供給を束ねて、効率化、規模を大きくしていく事が重要。国では輸送資源のフル活用と謳っている。総合的にまとめていく事も入れていただければ。

<p>ランドブレイン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施策の実施行程に関しては、前回もお伝えしているが、より細分化していただきたい。また、PDCAの図に関しても、各年度、どのタイミングで何を実施するかを記載した方がよい。 ・ p 4 幹線と支線に関しては、p 9 の将来ネットワークに記載している。 ・ 他分野連携に関しては、課題として何を守らなければいけないか、それに対して交通が何が出来るかといった考え方も必要かと考えるため、記載方法について検討させていただく。 ・ 実施行程、PDCAサイクルに関してはより細分化し見える化させていただく。 ・ ODに関しては、把握しきれていないため、必要な調査を見極め、今後検討していく。
<p>石井会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 12月11日に実施した、館山市地域公共交通会議で出た意見について事務局より説明を求む。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「第1期計画から現状と課題をとらえ、今後5年間を見据えた本計画は妥当であり、計画に基づいて実践され、公共交通の利便性向上が図られることを望みます。」という意見と、「地域間幹線系統の利便性向上に絡めて、洲の崎線は2市をまたがないが、交付金等を受けられるように検討していただき、洲の崎線の利便性の低下と運賃負担の増加が無くなるようにして欲しい。」との意見が出た。事務局としても、洲の崎線維持のため、フィーダーに位置づけて検討していきたいと考えている。
<p>中川委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ JRバス関東としても、沿線住民の生活を支える交通手段として維持に努めているが、当社の営業努力だけでは、路線の維持も難しくなっているので、国の補助制度などを活用し、路線の維持確保を図っていきたい。皆様にもどうかご協力いただきたい。
<p>事務局</p>	<p>【その他：事務局より】</p> <p>11月29日開催の南房総・館山公共交通フェスタアンケート結果について、資料を基に報告。</p> <p>【その他：次回会議日程について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パブリックコメントの実施後に書面での開催を予定している。